

不登校の子供への対応に疲れた保護者に、どのようにかかわったらいいですか。

A 精一杯の気持ちを受容し、新たに出発しようとする気持ちを起こさせる援助をしましょう。

対応に疲れた保護者が抱えているつらい気持ちなど

- 学校から「とにかく学校へ連れてきて」「子供の様子を毎日報告して」などと要求されると、どうしたらいいのかと、迷いが出て疲れます。
- 「子供と約束してできるくらいなら、こんなには苦しまないですむのに。」などと、教師の無理解に傷付き、疲れます。
- 「母親として、どのような対応をしましたか。」などの、教師の何気ない一言が冷たく響き、孤立感を深めてしまい、疲れます。
- 「〇〇さんの子供は不登校なんだって。」と言われてははいないかななどと、世間体を気にする余り、居心地が悪くなったり抵抗感が残ったりして、疲れます。
- 父親から「おまえの育て方が悪いから、子供が不登校になったんだよ。」などと非難され、夫婦間でお互いの気持ちを支え合うことができずに、母親が二重のつらさを背負っています。



保護者への言葉掛けの例

- ・ 「『学校へ連れてきて、子供の様子を毎日報告して』と言われても、仕方ないと思われるのですね。ますます、困ってしまわれるのですね。疲れがドツと出てしまうのですね。報告されるのがきついと感じられるのですね。今、どのようにしたいと思っていますか。」
- ・ 「何かしたいと思う程、苦しく感じられるのですね。」「先生のチョットした言葉が重くのしかかっているのですね。」
- ・ 「先生の言葉がとてもつらく、お母さんとしては、悲しいやら情けないやら、とても苦しい思いをされたのですね。今のつらさは、きっとよい方向に向きますよ、一緒に考えていきましょう。」
- ・ 「世間体や他人の目が、とても辛く感じられるのですね。他人が口出ししなくても、思っておられるのですね。外に出たり、近所の人に会ったりすることがつらく思われるのですね。」
- ・ 「御主人の無理解が、情けなく感じられるのですね。お母さんは、自分の無力さを感じておられるのですね。もう投げ出してしまいたいなど、苦しんでおられるのですね。」



保護者が抱えているつらい気持ちなどに対する教師の行動等

- 効率的な助言・援助だけに留めないで、一見無駄とも思われるようなことも何気ない自然な形で援助をします。
- 保護者のつらく悲しい気持ちを受容し、子供を何とかして学校に行けるようにさせたいという気持ちに寄り添い、自信を取り戻せるよう援助をします。
- 保護者と手を組んで、子供に必要な援助ができるように、協働態勢をつくります。

教師の行動等の具体例

- ・「お母さんが子供さんのことを何とかしたいと思っておられることは、きっと、子供さんに伝わりますよ。子供さんを信じて、自分を信じて、待ってみましょう。」
- ・「子供さんも同じように苦しんでいると思いますよ。きっと立ち直ります。子供さんを信じて、そして、夢と希望をもたせましょうよ。」
- ・「私のできるお手伝いをしたいと思います。お母さんが思っていることをお話してください。」



教師の対応、援助の視点

《保護者の気持ちを温かく包み込むための環境づくりを目指す》

- 保護者が毎朝、担任に電話連絡をするのは、かなりつらいことであるという認識をもちます。
- 保護者が安心して連絡しやすいように、担任の空いている時間等を知らせておきます。
- 教師は保護者と協力して子供を育てていく一員であることを知らせ、保護者だけに責任を負わせないことです。
- 不登校の態様は様々で症状には段階的変化があることを知らせ、今どの段階なのか、どのように変容するかなど、対応の見通しを保護者に伝え、安心して対応しやすくなります。
- 固定した因果関係（思い込み等）で原因や問題点を捜すよりも、何かプラスの変化が起きていないかなど、解決の方向性を保護者と一緒に探すことに努めます。
- 保護者の気持ちを確かめながら、解決のためのアイデアを出し合いながら、次の行動につながるプラン（一歩前進できるもの）を作ります。



教師の対応、援助の具体例

- ・「毎朝の連絡はたいへんでしょう。お母さんの努力には、頭が下がります。」
- ・「私の空いている時間帯は……です。いつでも連絡をください、待っています。」
- ・「子供さんの今の状況は、〇〇段階の後半くらいでしょうか。回復の兆しが見えていますよ。もう少しです。お母さん、笑顔を絶やさないようにしましょう。」
- ・「表情がだいぶ明るくなってきましたね。部屋の整理など始めていませんか。だんだん、元気を取り戻して来ているようですね。」
- ・「すばらしい対応をされましたね。一歩前進しましたね。次の一歩を目指して、取り組んでいきましょう。」